2026 年 11 月 26 日

各　　位

会 社 名　　アミタホールディングス株式会社
代 表 者　　代表取締役会長 兼 CVO　熊野英介
（コード番号：２１９５　東証グロース）
問合せ先責任者　代表取締役社長 兼 CIOO　末次貴英
ＴＥＬ　　（０７５）２７７-０３７８（代表）

冷凍食品包装フィルムを、ポリエチレン袋にリサイクルする実証実験を開始
～2024 年開始の回収プロジェクトがステップ２へ、日清製粉ウェルナが新たに参画～

当社連結子会社のアミタ株式会社（代表取締役社長：宮原 伸朗、以下 アミタ）、株式会社イトーヨーカ堂（代表取締役 会長兼社長：真船 幸夫、以下 イトーヨーカ堂）、TOPPAN 株式会社（代表取締役社長：野口 晴彦、以下 TOPPAN）、株式会社ニチレイフーズ（代表取締役社長：竹永 雅彦、以下 ニチレイフーズ）の４社は、2024 年 10 月より「冷凍食品包装回収プロジェクト『ごちそうさまの、その先に。』」（以下 本プロジェクト）を進めてきました。このたび、株式会社日清製粉ウェルナ（代表取締役社長：岩橋 恭彦、以下 日清製粉ウェルナ）が新たに参画し、５社による取り組みとしてプロジェクトを拡大させます。

今回、本プロジェクトのステップ２として、ニチレイフーズと日清製粉ウェルナの製造工程で発生する冷凍食品包装フィルムの余剰品（以下 余剰フィルム）を、両社がそれぞれ自社内で使用するポリエチレン袋へリサイクルする取り組みを実施します。

記

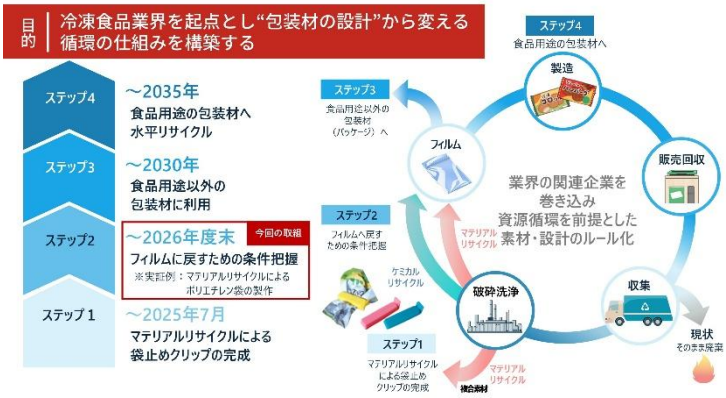
１．取り組みの内容

■今回（ステップ２）の取り組みについて

ニチレイフーズと日清製粉ウェルナの冷凍食品工場で発生する余剰フィルムを原料として、両社がそれぞれ自社内で使用するポリエチレン袋へリサイクルする実証実験を 2026 年 11 月より開始します。本取り組みの特徴は、工場で発生した余剰フィルムを、再び自社内で活用する「クローズドループ型」の資源循環を実現する点です。TOPPAN はリサイクル技術を活用して余剰フィルムをポリエチレン袋へ加工し、アミタは企業間連携のコーディネートや資源循環スキームの構築を支援します。

■本プロジェクトについて

本プロジェクトは、冷凍食品包装フィルムの「水平リサイクル※1」の実現を最終的な目標に、段階的に取り組んでいます。ステップ１として、2025 年７月に、生活者から回収した使用済みの冷凍食品包装フィルムを活用し、マテリアルリサイクル※2による袋止めクリップ等の製品化を実現しました。なお、イトーヨーカ堂は引き続き、生活者から使用済み包装フィルムの回収を行います。



ステップ２では、マテリアルリサイクルとケミカルリサイクル※3を用いた検証を進めます。第一歩として、仕様が明確である余剰フィルムを対象に、マテリアルリサイクル技術を用いてポリエチレン袋へリサイクルする実証を行います。実際に自社内で使いながら品質や耐久性を評価し、水平リサイクルに必要な知見を蓄積します。なお、ケミカルリサイクル技術についても、並行して条件把握を進めてまいります。

■各社の役割（※五十音順）

企業	役割
アミタ	企業間連携のコーディネート、資源循環スキームの構築支援
イトーヨーカ堂	生活者が店頭に持参した、使用済み冷凍食品包装フィルムの回収（継続）
TOPPAN	リサイクル技術を活用して余剰フィルムをポリエチレン袋へ加工
ニチレイフーズ	工場で発生した余剰フィルムの提供と、ポリエチレン袋の自社内での使用
日清製粉ウェルナ	工場で発生した余剰フィルムの提供と、ポリエチレン袋の自社内での使用（今回新たに参画）

■背景

食品の製造現場において、製品包装に使用されなかった余剰フィルムや使用済み包装フィルムの資源循環が共通する課題となっています。さらに製造業全体では、資源循環への対応が求められる中、再生材をどのように活用しているかが、企業の競争力に関わる重要な要素となりつつあります。また、EU では、2026 年８月に「包装・包装廃棄物規則（PPWR※4）」が本格適用され、EU 市場に商品を流通させる多くの日系企業が対応を迫られるなど、資源循環への対応は国内外を問わず広がっています。

２．これまでの実証成果

2024 年 10 月に開始した「冷凍食品包装回収プロジェクト『ごちそうさまの、その先に。』」では、アミタ・イトーヨーカ堂・TOPPAN・ニチレイフーズの４社で使用済み包装フィルムのリサイクルに向けた技術検証や、効率的な回収スキームの確立を目指して実証を進めてきました。2026 年８月までに約１万２千袋分に相当する約 65kg の使用済み包装フィルムを回収しています。回収した包装フィルムは、日常的に使える袋止めクリップ等として製品化し、地域の公民連携イベントなどを通じて各家庭に届けています。これにより、繰り返し利用できる形で資源循環を実現しています。

３．今後の展望

５社は、2024 年 10 月のプロジェクト開始時に掲げた、生活者・行政・企業の連携による冷凍食品包装フィルムの分別回収・リサイクルの仕組みの構築という目標に向け、継続的な実証に取り組んでいます。最終的には、包装フィルムを再び同じ用途で利用する「水平リサイクル」の実現を目指しま

す。

今回の日清製粉ウェルナの参画を機に、今後も業界全体を巻き込みながら実証範囲を拡大していきます。本プロジェクトに共感し、ともに資源循環の輪を広げていただける企業を募集しています。

４．業績に与える影響

本件が当社の今期業績に与える影響は軽微ですが、中核サービス「Cyano Project」の事業展開に向けた取り組みと位置付けております。

本取り組みを通じて得た企業間連携の設計や資源循環スキームの構築に関する知見や実績を生かし、資源循環の仕組みづくりをさらに推進するとともに、「Cyano Project」の他の顧客企業への展開を進めることで、中長期的な事業拡大につなげてまいります。

５．関連リリース・お知らせ

2024 年 10 月 22 日

店頭回収した冷凍食品包装（フィルム）をリサイクルする実証実験を開始～冷凍食品包装回収プロジェクト「ごちそうさまの、その先に。」～

https://www.amita-hd.co.jp/news/241022_recycling-frozen-food-packaging.html

※1　リサイクル前と後で用途を変えない資源循環の方法

※2　物理的に加工して、原料として再利用するリサイクル手法

※3　化学的に分解して、原料として再利用するリサイクル手法

※4　包装廃棄物の削減とリユース・リサイクル促進を目的とした、EU 域内で流通する包装材に関する包括的な規制

＊本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以　上

本件に関するお問い合わせ先
アミタホールディングス株式会社　IR 担当　ir@amita-net.co.jp